

2025年1月29日取材

熊本県

産地レポート

ミニトマト

有限会社アーティフル

ベジスナック

「千恋」は

食味と店もちのよさがポイント！

(編集部)



↑右から農場長の隈部浩樹さんと岩崎さん。

データを集積し、生産者へ 高収益生産システムを提案

熊本県の北部に位置する熊本市北区植木町で、新しい品種、資材、技術を試験しながら、よりおいしく、安心安全で栄養たっぷり、彩りも楽しめる野菜を消費者に届けている有限会社アーティフル。新食感のミニトマト「千恋」をいち早く導入し、生産・販売されています。

熊本県は農業県でもあり施設園芸が盛んで、大玉トマトやミニトマトの大産地です。アーティフルは、農業の発展に貢献できる農業技術開発に力を入れており、生産者に情報提供をするために、モデル農場として積極的に新品种・新作型・新技術を導入し、品種ごとの生育や収量データを集積しています。これらのデータより収益性・効率性を検証し、生産者に高収益生産システムを提案しています。露地栽培で



地域概況

熊本市には、中央区・西区・南区・東区・北区の5つの行政区があります。豊かな自然環境のもと、各地の特性に応じて農水産業が営まれています。中でも、北区は市の北部に位置し、5区の中で最も面積が広く、第一次産業の就業者も最多で、農業が盛んに行われています。特に、全国的にも有数の生産量を誇るスイカをはじめ、メロン、ナス、ハウスミカン、花きなどの施設園芸作物、ウンシュウミカンなどの果実や米など多様な品目が生産されています。



↑トマト栽培用ハウス。安全で安心なものを持続的に作るために生産工程が管理されていることが必須と考えGAP認証を取得。

はカラフルニンジンなども栽培されていますが、特に力を入れているのが、色鮮やかなミニトマト。見た目も味もひと味違うユニークで「おいしい」品種を栽培しています。

アーティフルでの 「千恋」の仕立て

アーティフルでは、3〜4年ほど前からナツメ型の赤色ミニトマト「千恋」



↑トマト栽培用ハウス。ハイワイヤーを使用した省力・高品質を実現する養液土耕システムを導入。(6月19日撮影)



←従業員の方々と。「千恋」だけでなく、ミニトマト「千果」シリーズや「オレンジ千果」も栽培。将来自立を目指す若いスタッフにとっても日々知識と経験を吸収できる環境。



↑トマト栽培用ハウスに導入している環境制御システムなど、新技術を導入し収益性・効率性を検証することで、生産者への高収益生産システムの提案につなげる。

を導入されましたが、それはまだ品種名がつく前でした。

今回取材した北部農場の計25aのトマトハウスでは、ハイワイヤーを使用した省力・高品質を実現する養液土耕システムを導入しています。培養土の代わりにヤシ殻という繊維状の培地を使用。根域制限し、養液を適正な量と間隔で自動給水し栽培しています。土づくりの手間が不要で、土壌病害のリスクも軽減できます。さらに適正な施肥管理ができるので、収量の増加や生育のスピードアップ、栽培期間の延長が可能というメリットもあります。

今回取材した「千恋」は、128穴セルトレイで育苗された苗を2024年8月7日に約700本定植し、2025年7月上旬まで栽培予定とのこと。取材時の段数は、約20段でしたが、最



↑品種名の「千恋」を表記して販売している100g入りパッケージ。こちらはヘタなしで出荷。ベジスナックのキャッチとファイトリッチのロゴも入れ、付加価値をつけ差別化を図ることでリピーターを見込む。

最終的には50段までの着果、収量は10a当たり約13tを見込まれています。なお、台木は長期栽培のために専用の強勢台木を使用しているそうです。誘引や芽かき、葉かきなどの栽培管理は週1回行い、収穫は週2回のペースで管理されています。

扱いやすい「千恋」の栽培特性

限部農場長には、「千恋」の特長は「扱いやすさ」だと評価いただいています。同じ赤色・ナツメ型の他品種では、下段はサイズが大きくなりやすいという問題がありますが、「千恋」は初期から大きくなりやすく、売りごろのサイズになる。また栽培面では葉かび病(Cf9)、トマト黄化葉巻病(Ty3a型)など、基本的な耐病性を有するので他品種と併せた防除対策ができ、管理しやすいこともポイントの一つだということです。

高温で灌水が増える時期には徒長が気になりますが、高濃度液体ケイ酸「マグマSi」を灌注することで節間を詰まらせて栽培をしているそうです。また、葉の色を確認し、超即効性の酢酸マグネシウム液肥である「マグマツハ」を使用しマグネシウム欠乏に対応、高品質を維持されています。

「千恋」のよさは 食味と店もち

収穫後一部はヘタなしで100gパックに詰めて、品種名入りのシールを貼って出荷しています。その理由をお聞きすると、「千恋」は甘みだけでなく、ほどよく酸味もあるので味のバランスがよく、また、糖度以上においしく感じる食感のよさが印象的で、リピート買いを期待できるからだそうです。「千恋」はゼリー部分が少なく、果肉がしっかりしているので食感も楽しめます。さらに、物流の2024年問題による店もちへの要求が高まる中で、ヘタなしで出荷できる面でも店もちがよいので、卸会社にも好評をいただいているとのこと。その店もちのよさから、海外へ出荷しても評判がよく、日本産のおいしいトマトとして販売いただいています。日本から世界へ。今後も新たな需要へ「千恋」の可能性は拡大しています。



↑収穫された「千恋」。ヘタあり出荷時の様子。ヘタあり・なしと使い分けて出荷している。

※2024年4月、働き方改革関連法施行によりトラックドライバーの時間外労働の上限規制などが適用され、輸送能力の不足などが懸念されている。